

甲府東高校生徒・保護者の皆様へ ～ 冬季休業及び今後の教育活動に向けて ～

2020年も残り1週間となりました。生徒の皆さん、保護者の皆様におかれましては、年度当初より本校の教育活動全般にわたり、ご理解、ご協力をいただき厚く御礼を申し上げます。

振り返れば、本年度は、臨時休業という形でのスタートとなり、その後約2か月もの期間、休校が続きました。日常の学校生活がどれほど大切なものであったかを痛感するとともに、ご家庭においても、果てしない閉塞感に、心をどう保つのかに親子で苦心されたと思います。また、学校が始まってからも、分散登校や時差登校の実施、蒼龍祭等の学校行事の中止、部活動も禁止から徐々に再開されたため、主要大会やコンクール等は全て中止されるなど、夏休みまでは、学校の日常とはほど遠い状況が続きました。

短縮された夏休みに中に、高体連の夏季体育大会が開催され、9月に本校でも学園祭の代替行事である蒼龍大運動会を行うなど、ようやく通常に近い形での学校生活ができるようになりましたが、それでも現在、第3波の到来を受け、12月の修学旅行を2月上旬に延期しております。感染状況に左右されて、中止や変更となる行事等が相次ぐなど、先行き不透明な学校生活に、生徒や保護者の皆様も大きなストレスを抱えていらっしゃると思います。

私達教職員も、国や県教育委員会からの通知等を参考にしながら、コロナ禍での学習活動及び各種学校行事等をどのように展開するか、試行錯誤を重ねてきました。今年、最も苦心しているのが「密」を避けなければならないことです。学校では、授業も学校行事も部活動や委員会活動なども、ほとんどが集団やグループで行い、密接な距離感での活動やコミュニケーションが中心となっています。それらを否定するのが新型コロナウイルスの恐ろしいところです。

従来の方法に近いやり方で実施しようとする、どうしても感染リスクが高まります。リスクをゼロにするには、実施を諦めるしかなく、安全のためには、それで良いという考えも正しいと思います。しかし、高校時代にしかできない、生徒を大きく成長させる行事、他に替えの効かない行事等は、何とか実施したいという考え方も間違っていないと思います。そこで、リスクをできる限り抑えて実施することが重要になりますが、低くしようとするほど、これまでの活動形式や期待される教育効果からは遠ざかってしまいます。そのようなせめぎ合いの中で、どこを着地点とするか。本当に難しい判断になります。

まだ当分は、このような状況が続くと思われ、本校では、基本的にはこれまでと同様に、安全を優先しつつ、教育的な効果も考慮しながら、教育活動の実施を判断して参りたいと思いますので、引き続き、ご理解、ご協力をお願いします。

さて、明日からは冬季休業になります。ここまで無事に教育活動ができましたことに対して、改めて皆様のおかげであると感謝しております。しかし、現在の第3波の急速な拡大は、これまでのペースを上回るスピードで進んでおり、市中感染も相当広がっていると思われ、学校外の行動範囲も広い高校生には、「感染しない、させない」意識や自覚を強く持ち、「自律」した行動が求められます。このような、お子様の主体性を育む指導について、ご家庭においてもご協力の程、よろしく願いいたします。

2020年12月24日
甲府東高等学校
校長 佐野 修